



## 誰もが身近に楽しめる玩具花火

有限会社 タチカワ 代表取締役

立川 靖さん



玩具花火は

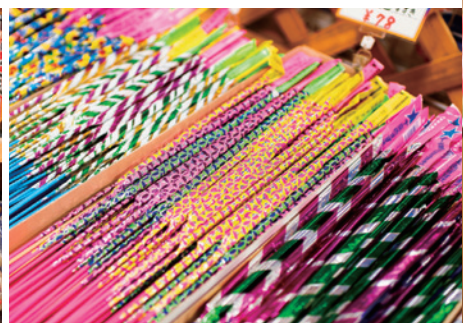
江戸の庶民に広がっていた

「玩具花火の発祥ははっきりしませんが、江戸時代には庶民の間に広がっていたようです。江戸前期の俳諧集『洛陽集』に、細い藁の先に火薬を付け、香炉に立てて遊ぶ女性の姿が詠まれています。香炉や火鉢に立てた格好が線香に似ていたため、線香花火と呼ばれるようになりました。その後、和紙をこよって火薬を包んだ形となり、江戸で流行したそうです。また、弥兵衛（初代鍵屋）が葦の筒状の部分に火薬を詰めた玩具花火を売り出した記録もあります。

明治になるとさまざまな彩色光剤が輸入され、玩具花火にも取り入れられました。日本の伝統的な色の和火に加え、色彩豊かな洋火が生まれました。昭和にはさらに開発が進み、種類豊富な玩具花火が楽しめるようになりました」

市川と玩具花火

「市川の玩具花火産業は昭和20年代から30年代にかけて発展しました。当時は、市川大門村の世帯全体の1割に当たる約300世帯が玩具花火産業に従事していたようです。全国を行商で回ったり、主にアメリカへ輸出したりしていた時代もありました。しか



日本各地の色とりどりの花火がそろう店内



## はなびかん

立川さん経営の花火販売店。子どもだけでなく、大人も感動する国産花火を中心とした玩具花火がそろう。

市川三郷町高田534 TEL.055-272-8100

営業時間：10:00～18:00

定休日：月曜日(時期により異なりますので、お問合せください)



市川の和紙で手作りされた線香花火「市川神明牡丹」

力を多くの皆さんに知ってほしいですね」

私たちが小さな積み重ねを大切にしながら、山梨の花火文化を次の世代につないでいこうと思えます。大人も感動させる力を持つ日本の玩具花火の魅力を

私たちが『火育』と呼んでいます。子どもたちに、花火を通じて火に接することでさまざまなことを学んでもらっています。

「国産花火は外国製品とは一線を画します。やはり作り手の感性が違います。花の開き方から散り方まで本当に美しいです。このように魅力ある玩具花火を体感できる機会として、玩具花火大会や花火スクールなどのイベントも開催しています。山梨が花火の聖地のような存在となり、安全な環境で思い切り楽しめる場所になっていければと思っています。火を使うことは教育的にも大切だと考えています。私たちは『火育』と呼んでいます。子どもたちに、花火を通じて火に接することでさまざまなことを学んでもらっています。」

「山梨を花火の聖地にし、多くの人を感動させたい」

し今では国産の玩具花火は作り手がいなくなりつつあります。子どもの数も減り、花火ができる環境も少なくなりましたし、海外生産の安価な花火が入ってきたことも原因です。そこで市川三郷町から玩具花火の新しい歴史をつくらうと、オリジナルの線香花火『市川神明牡丹』を考案しました。この線香花火は、町内にある歌舞伎文化公園(初代市川團十郎ゆかりの地)に咲く牡丹の花びらをイメージし、市川の和紙を使って、一本一本丁寧に作られています」